

## 英語学習教材製作プロジェクト

### －高校生を対象とした体験型英語学習

#### 1. 背景

現在、日本の教育では主体的・対話的な学びが重視されている。そこで本プロジェクトでは、中等英語科教育で実践できる英語学習教材を作成し、体験型学習アプローチから高校生の英語学習における主体性を向上することを目指す。また、その教材の題材に、年々函館で増加する外国人観光客に向けた内容を含め、地域貢献の要素を英語学習に加える。特に、本プロジェクトでの教材制作を通じて、高校生の英語学習への意欲向上と函館の地域活性化に注目する。

#### 2. 目的

上記の背景を踏まえ、本プロジェクトの目的を下記の通り設けた。

- (1) 本プロジェクトのメンバーと高校生が共同で英語学習教材を作成することにより、英語を楽しく学ぶ機会を提供する。
- (2) 実践的な英語、つまり対人でコミュニケーションを行うための英語を使用する機会を提供する。
- (3) 函館の地域活性化を目指し、英語学習に地域貢献の要素を加える。

#### 3. 概要

本プロジェクトの概要は、連携先の遺愛女子高等学校の生徒7名と協働で、函館のPR動画を作成する体験型学習を行い、生徒たちの英語学習における意欲の変化を見ることで、体験型学習の有用性を検証することである。また、PR動画は編集後、函館に来る外国人観光客を増やすためにYouTubeなどのSNSに投稿される。活動の概要については、表1の年間スケジュールの通りである。

表1 年間スケジュール

2017年10月	プロジェクトの企画	3月	PRするお店の決定（高校生にもお店についてアンケートをした）
11月	北海道教育大学附属函館中学校で函館中部高等学校との協働授業を参観	4月	客船ボランティア見学・遺愛女子高等学校と打ち合わせ
12月	遺愛女子高等学校訪問（本プロジェクトの概要説明、生徒募集のプリント配布）	5月	事前指導に向けての準備・撮影予定のお店への交渉
2018年1月	地域プロジェクト中間発表準備	6月	遺愛女子高等学校での事前指導（合計3回）
2月		7月	撮影・成果発表会への準備





## 4. プロセスと成果

### 4.1 研究会への参加

11月に北海道教育大学附属函館中学校が北海道函館中部高等学校と連携して実施した授業を参観した。その授業では、高校生が英語の先生となり中学生に英語を教える体験型学習であった。その参観から、体験型学習が生徒に主体性を養うことや、生徒に英語を学習できる環境や場を提供することも教材になることを感じ取った。この参観を通じて体験型学習のアプローチによる教材の作成が決定した。

### 4.2 英語学習教材の内容決定

外国人観光客に向けて函館のPR動画を作成する教材を高校生に提供することにした理由は3つある。まず、北海道教育大学附属函館中学校で参観した授業と同じ形態のもの、つまり誰かが誰かに何かを伝える構図での教材を作成したいと考えたからである。この教材の場合、高校生が外国人観光客に函館の魅力的な情報を伝えることである。次に、高校生が関わったものが動画という一つの作品として残ることは高校生に達成感を与えると考えたからである。さらに、外国人観光客に人気の観光地の一つである函館を活性化させるためである。現代の情報化社会において、観光地の有名な飲食店などについては誰もが知っている。今観光客が知りたい情報は、情報誌には載っていない地元の人がお勧めするお店である。したがって、本プロジェクトでは、外国人観光客に紹介したい飲食店をテーマとしたアンケートを高校生に行い、その中から特定の飲食店について紹介することに決めた。

### 4.3 遺愛女子高等学校での事前指導

本プロジェクトの連携先である遺愛女子高等学校で、プロジェクトの概要説明と参加生徒の募集をした。後日、本プロジェクトに7名の生徒の参加が決まり、紹介するお店の選択と動画のスキプトの作成を3回に渡る事前指導で行った。大学生は高校生に観光紹介で使えるフレーズをまとめ、それらを高校生に配布してサポートし、本学函館校の留学生である英語ネイティブ話者の協力者には最後の事前指導に来てもらい、完成したスキプトの添削やスキプトを読み録音して高校生へのモデルとなって頂いた。

### 4.4 撮影当日

2チームに分かれ、3人のチームは湯の川地区にある「手打ちそば・うどん上野」で、4人のチームは五稜郭地区にある「一膳屋」でそれぞれ撮影を行った。最寄りの市電の電停からスタートし、湯の川地区では函館アリーナ前、五稜郭地区では五稜郭公園前から行った。

### 4.5 アンケート調査

動画撮影を実施後、本活動について、英語学習における意欲に関する設問を3つ、本プロジェクトの事前指導に関する設問を3つ、最後に活動全体を通しての感想の欄を設けたアンケートを用いて、生徒にフィードバックをしてもらった。対象者は、遺愛女子高等学校の参加生徒7名である。下記はアンケート結果をまとめたものである。

- 英語学習における意欲や思いに関する変化では、下記の通りポジティブな意見が多く、中でもスピーキングに関する意見が特に多かった。
  - もっと積極的に話そうと思いました。
  - 今回の活動で、自然な会話での英語に触れることが出来たので、もっと留学生と話してみたいと思いました。
  - 英語の表現の幅をもっと増やしてたくさん外国人の方とコミュニケーションを取れるようになりたいと思いました。
- 活動全体を通しての感想では、下記の通り高校生自身が英語学習における意欲の向上を感じたことと、函館の地域活性化に貢献できたことへの達成感を感じられたといった意見が多かった。
  - 今回、このプロジェクトに参加させていただきありがとうございました。実際に留学生との話し合いを通して函館への地域貢献ができたことがとても嬉しいです。このような取り組みがどんどん増えていき、外国人も日本人も楽しく過ごせるようなまちづくりで函館がより活性化していけるといいなと思いました。(以下略)
  - 最初はちゃんと英語で函館をアピールできるか不安でしたが、一緒に英語学習を遺愛生のみなさんや大学生のみなさんのおかげで最後まで終わることができましたまだまだ自分の英語は不十分だと反省する部分もありましたが、もっと勉強して上手になりたいという思いも強くなりました。これからもこのような機会があったら挑戦してみたいなと感じました。お店の方々も優しく接してくださり、楽しい雰囲気の中で撮影をすることが出来ました。(以下略)

## 5. 総括と反省・今後の課題

事前指導から撮影を行った結果、英語に対してポジティブな意見が多かった。しかし、この活動を学校の授業の一環として継続的に行うには難しいと私たちは感じた。その一つとして、教員側の準備がかなり求められる。例えば、連携先との連絡やスクリプト作成の指導、そして編集に膨大な時間がかかる。したがって、今後は授業の一環としてこの活動をできるように改善したり、撮影をカットせず取ることによって編集の時間を大幅に短縮するといった改善も必要である。

また、今回はプロジェクトの期間を考慮し、PR するお店を2店舗としたが、今後はより多くの、まだ外国人観光客にあまり知られていない函館のお店を紹介できるようにしたい。そして、作成したパンフレットはより多くの人の目につくように市内のホテルや空港、駅などに設置していきたい。

## 6. 地域からの評価

本プロジェクトの連携先である遺愛女子高等学校で、作成した動画とパンフレットをもとに、評価会を実施した。その際に、高校側から「高校生が大学生のプロジェクトに参加し、それが形に残ったことは高校生にとってとても貴重な体験であったと思う。しかし、動画の合間にある高校生が何も発話していない場面は、不自然に見えるため、何か他に良い方法があったのではないだろうか」という感想や、「今回は初回のため、また回数を重ねていけば良いものになるだろう」と励ましも頂いた。

また、パンフレットは函館市内のホテルにも設置をお願いしたところ、外国人観光客の関心は高く、紹介するお店をもっと増やしてほしいという意見を頂いた。

## 謝辞

本プロジェクトの実施において連携先の遺愛女子高等学校教諭相川宏泰先生と参加生徒の皆様、また、ご協力頂きました本学留学生の方々、手打ちそば・うどん上野の皆様と一膳屋の皆様に、心より御礼申し上げます。誠に有難うございました。

プロジェクトメンバー：高橋菜月・佐藤葵・加川裕花・鶴谷誠治・金子篤也（北海道教育大学函館校3年）

担当教員：菅原健太（北海道教育大学函館校）